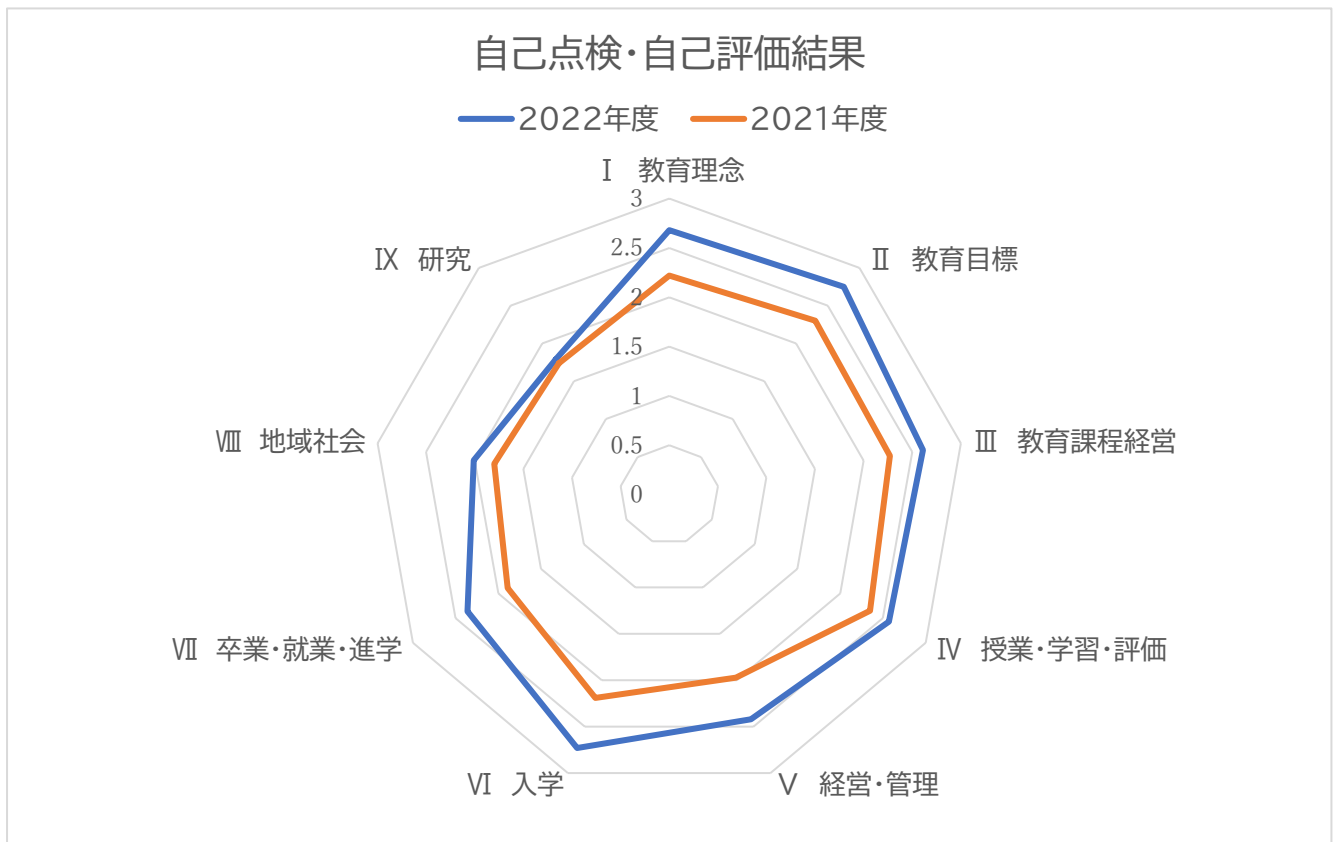


## 2022年度 自己点検・自己評価結果

評価は、「看護師等養成所の自己点検・自己評価指針」に基づき評価した。

1. I～IXの категорияとその評価項目(121項目)を、3段階評価(3:当てはまる、2:やや当てはまる、1:当てはまらない)とし評価した。
2. 評価点は評価者が3段階で評価した平均値とした。

カテゴリー	評価点 ( )は2021年度
I 教育理念	2.68 (2.22)
II 教育目標	2.75 (2.30)
III 教育課程経営	2.61 (2.27)
IV 授業・学習・評価	2.57 (2.35)
V 経営・管理	2.42 (1.97)
VI 入学	2.73 (2.19)
VII 卒業・就業・進学	2.36 (1.89)
VIII 地域社会	2.01 (1.80)
IX 研究	1.79 (1.74)



## 総括と課題および学校関係者評価

### I 教育理念・教育目的

昨年より 0.46 ポイント上昇した。新カリキュラムでは、教育理念、教育目的のほか、カリキュラムポリシーを提示し、教育内容、教育方法、教育環境を明確にした。またディプロマポリシーで卒業時の要件を明確に示した。指針として、カリキュラムポリシーおよびディプロマポリシーは 5・6 月に看護部管理者会議、師長会、臨床指導者連絡会議で説明し周知を図った。

#### 【課題】

教育理念・教育目的の理解のために、継続的かつ具体的に教職員会議で検討し、明文化して周知する。

#### 【学校関係者評価】

- ・ディプロマポリシーを制定して看護師教育に取り組んでいる。本校の掲げる3L とディプロマポリシーを結びつけて、教員が自信をもって看護師として社会に送り出せるように取り組む必要がある。
- ・新カリキュラムに関しては、看護部管理会で詳細な説明をいただき、実習受け入れ医療機関として、内容理解につながることができた。
- ・少子化が進んでいる現状で、社会人からの看護職育成も視野に入れた、教育理念の構築も必要になってきていると感じる。

### II 教育目標

昨年より 0.45 ポイント上昇した。到達目標は、教育理念・教育目的と一貫して設定している。新カリキュラムで各学年の到達目標を設定し明確に示した。期初、中期、期末に教育目標の確認、評価を実施しており、教職員での共通認識ができています。

#### 【課題】

ディプロマポリシーの到達のために継続して取り組む。

#### 【学校関係者評価】

- ・自己評価点数が昨年度より上昇し改善している。さらに学生が理解して実践できるように指導してほしい。
- ・各学年の教育目標を、年度初めに実習施設共有されており、協力体制はできていると感じる。

### III 教育課程運営

昨年より 0.34 ポイント上昇した。教育課程編成は科目の設定理由、到達目標を根拠をもって編成した。

単位の修得やカリキュラムの構成について学生、教員の双方が理解できるように明記し、新入生にはカリキュラム全体の説明を実施した。

教育課程の協議は適宜行っているが、カリキュラム評価の体制は構築していない。

教員が授業準備のための時間をとれるように実習指導からの帰校はタイムマネジメントのうえ、協力体制を整え実施しているが十分ではない。

自己研鑽のための学内外の研修参加の体制は整えている。また、スキルアップのため教員会議で教育方法の検討を実施している。

臨地実習施設への教育理念、教育目標の周知のため、毎月の臨床指導者連絡会議や年 1 回の講師会議を開催している。

g1-2 臨床指導者連絡会議で指導方法を共有している。「看護師養成所の運営に関する指導ガイドライン」

で実習する看護単位につき臨床指導者講習会を受講した実習指導者が2名以上配置されていることが望ましいとされているが、現状では満たされていない。コロナ禍であり実習中のカンファレンスの場所が確保できない。

実習の多くは設置者である財団関連の施設であり、臨床指導者連絡会議、管理者会議、師長会でも連携し教育理念等の理解を図っている。

患者の権利は実習に関する包括同意を病院に掲示し説明しているほか、学生に年度初め、各実習オリエンテーションで指導している。

学生の安全教育として医療安全の講義、各実習オリエンテーション、ヒヤリハット報告の分析と対策の周知を行っている。

#### 【課題】

得点の低いf1-2に対し、教材研究のための時間が確保できるよう日中の業務の見直しと調整を行う。

教材研究の体制を構築するための分析と働きかけを行う。

カリキュラム評価の体制を作る。

#### 【学校関係者評価】

- ・全体として、自己評価点数が昨年度より上昇し改善している。しかし、倫理規定と教員自らの自己研鑽について前年より評価が下がっていることに対し、それを改善すべく取り組むことが必要である。
- ・教員の授業準備の時間確保が課題になっているが、非常勤講師も時間外で準備している。組織として、時間外には該当していないため、教育現場を中心に対応も必要かと感じる。
- ・役割について明確にされているのだと思いますが、実習施設側へもう少し周知していただけると助かる。学校により教員のかかわり方が違うと感じるときがある。

### IV 授業・学習・評価過程

昨年より 0.22 ポイント上昇した。授業内容はデュプロマポリシーと科目の関連をカリキュラムマップで明確にし、カリキュラムポリシーで本校のカリキュラムの構成を明記した。また、看護学の教育内容として科目の設定理由を挙げ、妥当性があることを検証した。

授業形態は到達目標を達成するために妥当と考える形態を設定しており、教員間の共有と協力体制がとれている。

評価は科目の評価方法は設定しているが、単元の評価計画までは明確ではない。教員が担当する講義の授業評価は実施している。授業評価からの改善は各教員の判断に任せている。実習の評価計画はあり実施している。評価基準は学生にも理解できるように明確にしており、学則に基づいて評価し公平性は保たれている。教育目標の評価は卒業時の到達状況から確認している。

学習支援は各学年でシラバスの説明、模擬試験や面談等の年間計画の説明と実施、個人目標の設定と評価を実施しており、教員と学生で進捗の確認もできている。

#### 【課題】

評価計画を共通認識するための話し合いを行う。

#### 【学校関係者評価】

- ・全体として、自己評価点数が昨年度より上昇し改善している。デュプロマポリシー実現のためのカリキュラムポリシーが作成され、授業の質が改善してきている。

・コロナ禍では、オンライン等を駆使したり、学校内での実習で継続することができていた。

実習等で、学校の先生も学生さんと一緒にケアに関わっていただく場面があると、進歩している現状に直接触れることができ、先生として臨床看護師としてのギャップは縮まっていくのではないかと感じる。

## V 経営・管理過程

昨年より 0.45 ポイント上昇した。学校長が設置者である財団の事業計画に基づき職員会議で提示している。意思決定システムは各種会議規程、校務分掌により明確にしている。教職員の任用は設置者である財団側が理念や目的の整合性に照らし合わせて任用にあっている。

教職員の資質の向上のために非常勤講師への講義方法の説明を企画し実施した。

学校長は設置者である財団の一施設として中期・長期・短期計画、年間計画に基づいて教職員会議で説明している。

施設設備の整備では校舎の大規模な改修を行ったほか、適宜改善している。

学生生活の支援として、奨学金制度、図書の充実、外部業者の学習支援、スクールカウンセラーの配置などを行っている。

保護者への情報提供は、入学時・宣誓式後・2 年次年度末に実施している。また、ウェブポータルを活用しリアルタイムに情報を提供している。

学校の広報はオープンキャンパスや進路ガイダンス、進路説明会、高校訪問の他、ホームページでの発信をしている。

学校は設置者である財団の一施設としての養成所として中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。自己点検・自己評価は毎年実施し、改善策に取り組んだ。

### 【課題】

情報提供のためにホームページリニューアルで広報活動に取り組む。

学生と教職員が円滑に活動できるように継続的に施設設備の整備を行う。

### 【学校関係者評価】

・学校長の権限が明確となり、意思決定システムが徐々に整備されてきている。

・看護学校入学希望者の減少を感じる。4 年大学志向の中で、3年間の専門学校の特色をもっと前面に出していく必要がある。また、推薦等での人材確保に関しても、人数や時期的な部分での検討があってもよいと感じる。また、授業料に関しても、県内の看護学校の状況も勘案し検討の余地があるかと感じる。

## VI 入学

昨年より 0.54 ポイント上昇した。アドミッションポリシーを明確にした。職員会議において毎年受験者数、成績、選抜方法について検討している。またオープンキャンパス、進路説明会で受け入れ方針を説明している。

### 【課題】

少子化の中、募集に関して管内高校と情報交換をして学生の動向を見極め、入学制度の検討を行う。

### 【学校関係者評価】

特記事項なし

## VII 卒業・就業・進学

昨年より 0.47 ポイント上昇した。新カリキュラムではデュプロマポリシーを明確にした。また、卒業生の就職先へのアンケート調査を実施し互いの情報交換を行った。8 割は大原記念財団に就職するため、就職後の状況は把握できている。

**【課題】**

ホームカミングデイ(出身校が卒業生を招き、交流すること)を設定し、卒業生の活動状況を把握し、分析結果を授業展開に活用する。

**【学校関係者評価】**

- ・ディプロマポリシーの基で、教員が自信をもって社会に送り出せる看護師を育成し、就職先における卒業生の看護師としての資質について評価を受けてほしい。
- ・多くの学生が当財団に就職していただいている。個人情報管理はあるが、就職時の部署配置で、学生さんの情報を多少なりともいただけると、継続して働き続けていただける状況につなげることができるのではないかと思う。
- ・就職先との情報交換について、その方法や内容など話し合える機会があるとよい。

**VIII 地域社会／国際交流**

昨年より 0.21 ポイント上昇した。北信学習センターと連携を密にし、「ほくしん教育フォーラム」に参加し、地域とのかかわりを深めた。また、地域消防団とかかわり、災害看護の一環としても役立っている。

感染状況を鑑み、オープンキャンパスはオンラインで、学校祭は学内のみで実施した。

国際交流は、JICA に依頼し学習している。

**【課題】**

北信学習センター、地域の消防団と連携を密にし、イベントに参加し情報を得る。

ボランティア活動を通じ地域とかかわる機会を持つ。

**【学校関係者評価】**

- ・以前から課題である国際交流については言語学習の観点からも他国の人々と交わる機会をもち、視野を広げられるような企画をお願いします。

**IX 研究**

昨年より 0.02 ポイント上昇した。今年度は実施していない。R5 実施に向け前向きに検討している。

**【課題】**

教員の教育力と教育の質の向上のために、看護研究に着手する。

**【学校関係者評価】**

- ・教員自身が看護教育に関する研究活動に取り組む必要がある。前向きに検討するというあいまいな自己評価は好ましくない。
- ・教育の向上のためにも、取り組んでいきましょう。